

**1.5倍ヒール**

*By DA ☆*



# 1.5倍ヒーロー

この作品は、「マンガの原作」の想定で、シナリオ形式にて制作されています。

## ○登場人物

フウ

九歳の少年。いつも生意気で不機嫌。「1.5倍魂」で努力する本編の主人公。  
※漢字では風。苗字は特に設定なし。外見も特に設定なし。ただし、九歳児平均より大柄。

ルナ

フウの双子の妹。病弱で入院中。  
※漢字では月。入院中であるため服装は常時、パジャマ。それ以外の外見上の設定は特になし。ただし、九歳児平均より小柄。フウとははっきりわかる体格差。

とーちゃん

フウとルナの父親で良き理解者。四〇代前半。  
※外見上の設定は特になし。職業は設定していないが、フウをスポーツクラブに通わせ、ルナを入院させられるくらいの経済力はある。「かーちゃん」は登場しないが、共働きで、母親の方が稼ぎがよくて多忙、としておく。

ミキ

スポーツクラブの女性インストラクター。二〇代前半。

※服装は半袖Tシャツにジャージ。

ヤマセ

スポーツクラブの男性インストラクター。二〇代後半。

※服装は同じくジャージ。

院長

悪徳医師。

トリマキ

院長の悪事の実行部隊。やくざのひとり、としておく。

ボクサー

院長の悪事の実行部隊。元プロボクサー。筋肉質の大男で冷血な性格。

子供A

スポーツクラブの生徒。フウより年上。

子供B

スポーツクラブの生徒。フウより年下。

OLたち

チンピラたち

チンピラのボス

看護師たち

看護科長

## ○自宅（フウ五歳の頃の回想）

とーちゃんの前で正座しているフウ（五歳）。顔をくちやくちやにして泣いている。

※自宅の詳細設定はなし。本作では、これ以降自宅は出てこない。

フウ（五歳）

オレのせいなのか？ ルナがあんなによわつちいの、オレのせいかな？

とーちゃん

そうだ。……だからフウ、おまえは妹の分も生きなくっちゃいけない。人より1.5倍がんばって、1.5人分生きなくっちゃ、ルナからもらった分の命が無駄になっちゃってしまうんだよ。

1.5倍、生きるんだ……。

## タイトル「1.5倍ヒーロー」

### ○大通りの歩道（放課後）

時候は初夏。

郊外の住宅地を南北に貫く四車線の大通り。

大通り沿いは大きな建物が並んでいるが、一歩路地を入れれば民家、という地域。

歩道を歩いていくフウととーちゃん。フウはランドセルを背負っている。

フウ

……だから顔面にシュート食らわせて、ヤメテヤルって言ってやったんだ。

とーちゃん

ああ、まったく虫が好かねえコーチだったよな。……ってなあ、（フウの脳天をグーで殴る）頭下げたのはとーちゃんだ。

フウ

ウウ……ゴメン。

とーちゃん

ま、サツカーやってみるかかって言ったの、とーちゃんどもんな。やつはおまえにヤチームプレイは無理だったなあ。

大通りを渡る横断歩道にさしかかり、フウととーちゃんは信号待ち。

ふたりが渡ろうとしている先に病院。ふたりの背後、渡る手前にスポーツクラブ（つまり、病院とスポーツクラブは通りを隔てて向かい合っている）。

病院は鉄筋二〜三階くらい、築三〇年以上。長方形の建物に沿って南側に芝生の庭があるが、金網のフェンスで囲われている。古いが、経年以上の汚れはない。

スポーツクラブは鉄筋四〜五階くらい、真新しい。プールや体育館も含まれる、意匠を凝らした大きな建物。

とーちゃん さてフウ、次は何に挑戦する？

フウ

あのさあ……「何でもやる」ってないかな。その方がオレの「1.5倍魂」がアツくなるし、ルナにもたくさん話してやれる。

とーちゃん そうだなあ……。あれ？

とーちゃん、無意識に頭を回し、ここで初めてスポーツクラブの存在に気づく。

ふたりはスポーツクラブに向き直る。信号が青になるが渡らない。

フウ なんかしらねえけど、ずつと工事してたぜ。

とーちゃん 五丁目にあったスポーツクラブだ。移転するって話、ここ

だったのか。

フウ スポーツクラブ？

## ○スポーツクラブ・玄関口

掲示板に貼られた「生徒募集」のポスターに食い入るフウ。とーちゃんもポスターの内容を見る。コース内容や設備が書かれた事務的なものが数枚。いちばん端に、ヤマセが力こぶを作っている写真を含む子役スタント養成コースの勧誘ポスター。キヤッチコピー「僕といっしょにヒーローになろう！」

※「子役スタント養成コース」は、後にミキやヤマセが述べる理念めいたものも含めて、この物語を成立させるための架空の存在である。いちおう、「ショーコスギ塾」の活動内容を参考にしているが、日本にはそもそも「子役スタント」という概念がないようだ（ハリウッドにはある）。ここでは、「ひとつの競技に拘泥しない総合体育講座」を企画したスポーツクラブ側が、既にヒーロータレントとしての地位を確立していたヤマセを招聘して共同立案

したもの、としておく。

とーちゃん 子供向けは……水泳、器械体操に……。

フウ とーちゃん、これなんだ？（ヤマセのポスターを指差す）

とーちゃん スタント養成、ヒーローコース……？

ミキ登場。フウに気づいて近づく。

※名乗るシーンがないので、ジャージの刺繍か所有物に「三木」と記名することで提示すべきと思われる。なお、ミキは苗字。

ミキ 小学生クラスは私の担当ですけど……（膝に手を置いて、

フウを覗き込むように）きみ、興味あるの？

フウ おう、あるぞ！

ミキ アクシヨンスターになりたいとか、テレビ出たいとか？

フウ 違う違うそんなじゃなくて！ なんかいつぱいやれるみたいだからさ！

ミキ （勢いに押されて背筋が伸びる）そうね、盛り沢山のコースよ。

フウ （ポスターを指差して）拳法やんのか？！

ミキ ええ。

フウ （手をぶんぶん振り回して）ダンスやんのか？！

ミキ ええ。……でも、基本は器械体操よ。

フウ 体操もやんのか？！

フウ、腰に手を当て胸を張って満面の笑み。  
ミキの表情は段々硬くなってくる。

ミキ え、ええ……。

とーちゃん スタントマンを目指すことで？ 危険な演技を他の役者の代わりに演じる仕事……。

ミキ ええ。でも何を演じるかはお芝居によって違いますし、私どもでは自分自身がヒーローになる、というコンセプトです。で、究極的には、体を使うことだったら何でもこなすことが目標です。

フウの耳が何でもにびくと反応して、うれしそうな表情  
倍増。目がキラキラ。

とーちゃんは「あ、言っちゃった」という表情。  
ミキ、気付かずに続ける。

ミキ それだけ内容も濃くて厳しいです。人の倍はがんばらないと、ついていけない……

フウ (もう聞いてない) とーちゃんこれやる！ ぜってーやる！

とーちゃん そーか。(ミキに) すみませんが、申込書がありますか。

ミキ え、そんな簡単に?! あの、本当に厳しいですよ？ 拘束時間長いですし、月謝も他より高いですし、もう少しきちんと内容のご説明を……。

とーちゃん そんなことは問題じゃありません。火がついたみたいなん

で、もう止められません。

ミキ え……。

とーちゃん 正直言つてね、

とーちゃん、ミキに顔をずいっと近づける。

とーちゃん この子が本気になったら、厳しいのは先生方ですよ。

顔を引きつらせるミキ。

フウは満足そうな表情で再びポスターを見上げる。  
ポスターの中で歯を輝かせているヤマセのアップ。

## ○公園(夜)

居酒屋が並ぶ繁華街の路地を通り抜けると、公園の入り口。  
中は薄汚れておりあちこち落書きがある。

ヤマセが手にテーピングを巻きながら、歩いて公園に入っていく。

噴水のある広場。いくつもの街灯に照らし出されて比較的明るい。

OLふたりを、酔っぱらったチンピラが三々四人で取り囲んでいる。

※チンピラはいかにも悪人に見えるキャラであること。というより、このシークエンス全体が「フィクション」としていかにもあり

そんな流れ」であること。

OL1 あの、困ります……。

チンピラ1 まあ、そう言わないでさあ。

チンピラ2 ちよつとつきあえよう。

もめている様子を遠目に見る位置にヤマセが現れ、にやりと口の端を歪めながらリストバンドをはめる。ヤマセの体の周りに一瞬オーラが立ち上る。

※これが本作における「変身」に相当する。あまりに地味なのでそれなりにエフェクトが必要。

チンピラ1の手がOL1に伸びるところ、ヤマセが割って入ってその手をつかむ。

ヤマセ いやがる女性を力ずくとは、感心しないな。

チンピラ1 なんだ、てめえ!!

ヤマセ いやあ、(つかむ手に力を込める)名乗るほどの者じゃないさ。

チンピラ1 ぐ……あつ!

チンピラ1、振りほどこうとする。その動きに合わせて軽くヤマセが手首をひねると、チンピラ1は簡単に地面に這う。

チンピラ2、手近に落ちていた棒つきれを持ち、ヤマセの背後から襲いかかる。

チンピラ2 てめえ!

ヤマセ、後ろに目があるかのように軽々かわして振り向く。勢い余って前のめりになるチンピラ2の腹にヤマセの拳がめり込む。

チンピラ2 がはっ……。

チンピラ2、地に沈む。

残りのチンピラも、ヤマセを挟むようにして襲いかかるが、相手にならない。

近くに公衆便所があり、ベルトを締めながら、チンピラたちのボスが巨軀を揺らして出てくる。

ボス おう? どうなってんだ、こりや。

チンピラ2 (地に這ったまま) 兄貴! ……そいつ、強え!

ヤマセ ボス登場……か。

ヤマセとボス、対峙する。ボス、拳を握り骨を鳴らす。

ボス よくわからんが、弟分をかわいがってくれた札はしなきゃなあ、おう?

ボスが、踏み込んで殴りかかるが、ヤマセは下腕部を合わ



せて受け流す。ボスは何度も攻撃を繰り返すがいずれも合わされ、クリーンヒットにならない。

ボス  
この……！

ボス、つかみかかる。ここでボスはヤマセの両腕をつかむことに成功する。ニヤリとするボス、しかしそれはヤマセがわざとつかませたもので、同じようにニヤリと笑い返すと、つかまれた腕を軸に、ボスの体を駆け上がる。顔を強く蹴り飛ばし、そのまま宙返りして着地。

後方にふらつくボス。ヤマセはわずかに助走した後、ジャンプする。常人には不可能な高さに達し（足がボスの頭部より高い位置）、そこからキックを繰り出す（ライダーキックの姿勢）。胸に命中、ボス、もんどりうって倒れ、後頭部を打ちつけて失神。

ヤマセ  
受け身くらい取れよ、危ないぜ？

のされたチンピラたち、その中央に立つヤマセ。

ヤマセ  
さ、お嬢さん方、安心してお帰り。

OLたち  
あ、あの……ありがとうございます。  
ヤマセ  
礼など要らないよ。ははははは。

ヤマセ、背を向けて立ち去る。  
その背に、OLたちの以下の会話。

OL2  
すつごーい、あんなのできる人ほんとにいるんだあ。

OL1  
ねえねえ、もしかしてあの人「マックスヒーロー」のヤマセじゃない？

OL2  
ウソソマジ？ イケメンヒーローっていつてブレイクした？ ……でも、撮影中の事故でケガして引退したんじゃないかったっけ？

OL1  
奇跡のカムバックだって。「帰ってきたマックスヒーロー」って番組始まつてるよ。スポーツクラブの運営にも参加してるって話……。

ヤマセ、賞賛の声を受け、ほくそ笑む。  
ブライドが満たされた、という表情。

## ○スポーツクラブ・トレーニングルーム（数日後、放課後）

スポーツクラブのトレーニングルーム。通路とは透明なアクリル板で仕切られており、外から中が見えるようになっている。

ミキとフウ、その前に整列している他の子供たち。

生徒たちは男女混合で一人くらい、フウを含めて奇数。六歳〜一二歳まで、好きずきに並んでいるので頭の位置はでこぼこ。

ミキが生徒たちに呼びかける。

ミキ

今日から新しいおともだちがひとり加わることになりました。フウくんです。

(フウに) じゃ、今日は初めてだから、どんなことをやるか、見学してて

(さえぎる) やだ。

フウ

ミキ、鳩が豆鉄砲を食らったような顔。

ミキ

……。

フウ

黙って見てるなんて時間のムダだろ。オレもやる。

ミキ

ムリしなくていいのよ？

フウ

ムリしなきゃダメなんだよ。

ミキ

……ところでキミ敬語って知ってる？

フウ

ソンケーしてる相手に使う言葉だ。オレは誰もソンケーしてねえ。

ミキ

……。

ミキ、ため息をつく。

子供たち、なんかヘンな奴来たぞ、の表情。あるいは、吹き出すのをこらえている。

※本当はとーちゃんだけちよっと尊敬してる。逆に言うと、とーちゃんに敬語を使わないのに他人に使うわけがない。

ミキ

「きつとすぐ音を上げるわ……」

じゃ、ストレッチしまーす。

みな座り込んで足を広げる。体前屈。

※本来は手足の運動が先にあると思うんだけど省略。

ミキ

左前曲げー。膝曲げないでー。そのまま一〇秒。一、二、三……

お手本のミキはほとんどびったり胸まで膝についている。フウもミキの隣で体前屈している。ミキほどは曲がらない。歯を食いしばってつま先を握りながら曲げている。一〇秒経ってミキらが体を起こしても、フウは体を上げない。カウントを続けている。

フウ

一、一、二……

ミキ

フウくんもういいのよ？

フウ

一三、一四、一五！

ミキ

何で長くやったの？

フウ

オレは何でも人より1.5倍多くやるんだよ。

ミキは動きを止めてしまっているが、フウは直ちに右前曲げに移行している。

ミキ

そんな勝手に……。

フウ

先進めていいぜ、ちゃんと追いつく。ちんたらしてたら

追い抜く。

ミキ

……みんなと合わせよう、って言ってるんだけど。

フウ

時間は合わすって。練習サボるんじゃないんだから文句ないだろ。

ミキ

(渋い顔)……。

ストレッツチ進む。

ミキ

じゃ、立って。次、ペアでやりまーす。

(頭の数を数えて)……奇数になるのね。じゃあフウくん、

今日は私と。

フウ、ミキと背中合わせになる。

ミキ

背中合わせて手を上げる。お互いの手を持って背中に乗せ

……。

フウ、ミキの手(身長差があるので、肘の辺り)を持っていきなり背中に引き上げる。

ミキ

いいっ!?

フウ

……重てえっ! 何キロあんだてめっ!

ミキ

(顔を赤くする) って、この、やかましいっ!

子供たち爆笑。

ミキ、フウの背中から降りる。

ミキ

私は十分やっであるからいいの!

フウ

ええ!? これって重いモン持ち上げて鍛える運動だろ!?

ミキ

ストレッツチ! 持ち上げられる側の人に効果があるの!

フウ

(子供たちを指さし) こいつらよか絶対1.5倍以上重いから  
ちようどいいと思っただのに……。

ミキ

重い重い言うなーっ!

子供たち再度爆笑。子供Aが親指を突き上げて、「グツジヨブ! おまえサイコー!」のしぐさ。フウも親指突き上げて応える(ただし、子供Aが「よござ先生をやりこめた」という意味であるのに対し、フウは「見事に持ち上げた」という意味にとらえて応えている)。

※ミキはちゃんとウエイトコントロールしており、理想的な体重  
「重い」はあくまで子供との比較。

ミキの表情がだんだん疲れ始める。

ミキ

はい、じゃ、準備運動終わり……。次はいつもの二班に分かれてマット練習。

子供たち、手際よく倉庫からマットを出してきて並べる。マットを多数連ねて長く並べられた列と、短い列とがあり、子供たちもそれぞれに分かれる。長い列には比較的高学年が集まっており、短い列は低学年や運動のできなさそうな

体格の者が集まっている。  
準備ができたところで、長い列にいる子供Aがフウを呼ぶ。

子供A

なあ、おまえどれくらいできんのー？

フウ

何が？

子供A

こんな感じ。

子供A、マットに乗ると、軽く助走をつけていきなりバツク宙。

フウ

おー！ 上げー！

子供A

驚いてるんじや、そっちだな（短い列に目線）

フウ

すぐ追いついてやるって！

フウ、長い列の方に駆け寄ろうとすると、ミキがその襟首をひつつかむ。

ミキ

そっち行って何する気？

フウ

練習。今のやつ。

ミキ

フウくん、ぜんてんって何のことかわかる？

フウ

ぜんぶのおみせ。

ミキ、そのまま襟首を引っ張っていきこうとする。抵抗するフウ。

フウ

レベル高い奴とやんなきゃ、うまくなるもんもならねえだろ！

子供A

ムリすんなって。そっちで少なくとも三ヶ月鍛えて、それからこつちで三ヶ月練習。一から今の技マスターするには、それくらいかかるよ。

フウ

1.5倍早くマスターすつからそっちでやらせろ！

子供A

（少し考えて、冷静に）……それってどれくらい？

フウ

よんでん……。

フウ、固まる（計算がわからなくなる）。周囲に？が浮かび上がる。「アレ？ 4.5？ よけい時間かかる？ アレレ？」

今度はミキから子供Aにグツジョブ！ のしぐさ。そのま別別のマットに引っ張っていく。

ミキ

とにかく、キミは基礎から！

フウ、基礎のできていない他の子供と一緒に特訓開始。

ミキ自身が手本になって細かい技術を説明し、他の子供がまねていく。初めのうち、ただの前転だけでも、他の子はすつと立ち上がるのに、フウはしりもちをついたまま。フウ、難しい顔になる。だが、ミキが手を貸して数回練習するうちに、できるようになる。

その他、前転後転、倒立、側転……etc.

フウはある技ができるようになるとすぐ次の高度な技を要求する。しかし他の子ができるわけではないので進まな

い。歯がみしながら、長い列の高度な技を見ている。ミキが他の子供たちの指導にかかりきりになるようなスキを見つけては、フウはどんどん勝手に回数をこなす。また、高度な技を試みようとする。それぞれ、ミキが制止する描写。

ミキ

（疲労が濃いながらも冷静な観察）言うだけはあるわね……三ヶ月あれば本当に、小学生クラスのレベルなんて超えていきそう。年齢以上に鍛えてあるし、弱音吐かないし、何より、新しいことを吸収して成長したって気迫が並はずれてる……。

1.5倍がんばるっていうのは、こういうことね……。でも1.5倍って何なんだろ？

時間経過。

生徒たちがトレーニングルームの中で一礼。

生徒たち

ありがとうございますー！

礼がすんだ途端に、床にへたり込むミキ。

更衣室に走っていく子供たち。フウを取り囲んで口々にほめそやす。

子供A

すっげーなあ、おまえ。

フウ

へへ、さんきゅ。

子供B

ミキ先生がへたばるなんて、初めて見たよ！

とーちゃん

（フラッシュバック）この子が本気になったら、厳しいのは先生方ですよ。

ミキ

「ホ、ホントだ……シヤレになんない……」

へたりこんでいたミキが顔を上げると、部屋の入り口にとーちゃんが立っている。

その横を、更衣室から出てきたフウが、ランドセルを背負って駆け抜けていく。

フウ

お、とーちゃん。オレ、病院寄ってくぜ。

とーちゃん

おう、いっといで。

フウ

せんせー、じゃーなー。

手を振って見送るとーちゃんとミキ。ミキの顔は引きつり気味。

## ○スポーツクラブ・ロビー

応接セット（四人がけ）に差し向かいに座るとーちゃんと

ミキ。それぞれの前にコーヒーマシンの紙コップ。

とーちゃん

いかがでした、先生。

ミキ

参りました。子供の扱いには慣れていたつもりなんですけ

ど、フウくんみたいな子は規格外としか……。

とーちゃん 魔法の呪文、教えておきますね。

ミキ え？

とーちゃん 「ガマンも1.5倍」、って言うとなの子はだいたい扱いやすくなくりますよ。

ミキ (呆然として) 先に言ってくださいよ……。

とーちゃん ははは。

ミキ でも、1.5倍、って、どういう意味なんです？

とーちゃん ……あの子は双子でしょね。

### ○病院・ルナの病室

建物の上層階(三階くらい)、小児科の大部屋。六人くらいで、他にも子供が何人もいる。ルナは窓際のベッド。フウが、一生懸命今日のトレーニングの様子を説明している。ルナはベッドに体を起こして、微笑みながら聞いている。

よそのベッドの子供もカーテンを開けて覗き込んだり、丸椅子を持ってきて一緒に聞いたりしている。

とーちゃんとミキの会話が重なる。

とーちゃん 妹のルナは生まれつき病弱でして。お向かいの病院に今も入院しているんです。

ミキ あ、さっき「病院寄ってく」って……。

とーちゃん ええ、見舞いですよ。ほとんど毎日欠かしません。

ルナとは対照に、フウは頑丈な子でね。小さい頃から、元気がいつも有り余ってた。

物心ついた頃、フウはひ弱な妹をひどく嫌っていました。今思えば、一緒に遊べないのがもどかしかったんでしょう、よくいじめたり叩いたりしていたんです。

それをとがめて、私はこう叱ったんです。

おまえは、ルナから体の半分をもらったんだって。双子に均等に行くはずだった母親の栄養を、フウは1.5人分取ってしまった、ルナは0.5人分しか取らなかったんだって。

フウ(五歳)

(フラッシュバック) オレのせいなのか？ ルナがあんなによわつちいの、オレのせいかな？

とーちゃん

いつとき叱るつもりで言ったんですが、人生訓になってしまったみたいで。それ以来、あの子は妹に優しくなつて——それから、なんでも他人の1.5倍を目標にするようになりました。妹の分まで生きる、ってね。

### ○スポーツクラブ・ロビー

引き続きとーちゃんとミキの会話。

とーちゃん できれば、あの子のやりたいだけやらせてやってみてもらえま

せんか。

お気持ちちはわかりますが、私のクラスであのペースを主張されると、他の子がついていけません。六歳の子もいますから、遅い方に合わせなくちゃいけないんです。

ミキが困った表情をするところへ、ヤマセが通りがかる。会釈して通り過ぎようとするヤマセに頬を染めるミキ。それに目を留めるとーちゃん。ミキ、すぐに「ひらめいた」という表情。

ミキ あの、ヤマセさん、お話が……。

時間経過。

ヤマセも応接セットの席についている。

ミキ ……そういうわけなので、その子をヤマセさん直々の特選

クラスに入れてはどうかと思っ

ヤマセ 気が進まないな。

ミキ 特選クラスが原則中学生以上という方針は承知してます。

でも、金の卵だと思えますよ？ 基礎体力も、努力の素質

も十分です。技術的にはまっさらですけど、思い切りがい

いからすぐ吸収します。

ヤマセ そうじゃなくってさ、もっと根本的なこと。いつも言うんですけど、この養成コースのコンセプトは、「ヒーローを育て

る」なんだ。九歳ではヒーローになれないよ。

ミキ だから育てるんじや……。

ヤマセ (首を横に振る)メンタルな話さ。その歳だと、どんなに

ヒロイックな活躍ができて、世間の評価は「すごいね、よくがんばったね」で終わりだ。子供もそれで満足する。

それではダメなんだ。ヒーローは常に強く、他人のために戦う意志を持たなければならぬ。

小学生のうちは、ごっこ遊びの延長として体を鍛えることが先だ。ヒーローの鍛え方は、それとはまた違うものだよ。

ミキは納得しかかって、少し腰を引く。

一方、とーちゃんは少し身を乗り出して、ヤマセに厳しい視線を向ける。

とーちゃん お言葉ですが。ヒーローの定義がその通りなら、うちの息

子はもうとくにヒーローですよ。

気おされて目をそらすヤマセ。手帳を取り出し、予定を確かめる。

ヤマセ そうおっしゃるなら、見るだけは見ましよう。ミキ先生、

土曜日に特別講習を入れてたね？

ええ、夜開始で終了時間が遅いので希望者だけですけど。

ミキ ……フウくんは……。

とーちゃん 行く気満々です。

ヤマセ そのコマなら時間が取れる。顔を出すよ。

ヤマセ、立ち上がったて去っていく。  
とーちゃん、その背中を怪訝そうに見送る。

とーちゃん あの人の……偉いの？

ミキ、驚く。

ミキ ご存じなくてこのクラブに入ったんですか？ 「マックス

とーちゃん ヒーロー」のヤマセさんを？

とーちゃん うちテレビ見ないんだよねえ。

ミキ じゃ、フウくんも……？

とーちゃん あの子はヒーローものとか大っ嫌いだねえ。なんかよくわからんうちに一瞬ですごいパワーを出せるようになる、つてのが納得いかないみたいです。

あの子は、ルナだけのヒーローなんです。人より0.5人分多く活躍すればいいんです。大それた力は必要ありません。

## ○病院・ルナの病室

外は日が傾いている。

おしゃべりに興じているフウとルナ。

看護師が入ってくる。

看護師

フウ ルナちゃん、そろそろ検診よ。

ルナ お兄ちゃん、小屋寄ってて？ まだケンちゃんとかいるはずだよ。

病院南側の芝生の庭はさほど広くない。フェンスから建物までは、植栽と下述の小屋の分を足し合わせた幅。

病院の棟に寄り添うように木造の二階建ての小屋。八畳くらい。大きな窓があるがガラスははまっっていない。二階へ

ははしごがつながっている。さらに二階の屋根は一部開いていて、覆い被さるように立っているケヤキの木から太い

ロープが垂れており、太い枝までよじ登ることができると中や外で子供が遊びに興じている様子。ロープを伝って木

に登る子供。様子を見ている保育士。

また、近くには車いすに乗った年寄りなどもおり、庭全体が病院にとって憩いの場になっている。

看護師

フウ 小室って？

ルナ 姉ちゃん新入りだな？ 見ねえ顔だし。

一階のプレイルームから庭に出たところに建ってるの。引退した前の院長先生が、子供には外にも遊び場が絶対必要

だって言って自分で建てちゃったんだって。

フウ すっげーんだぜ、ナリはちっこいけど二階建てでさ。そば

の木にもロープ伝って登っていいんだ。



看護師

へえ、あの小屋ってそういう……。あたし物置だと思ってたわ、あはは。

……ああ、そうそう、検診検診。

フウ

オレも帰んなきゃ。じゃ、ルナ、またな！

フウ、ランドセルを持ってルナの病室から出る。とたんに、廊下を歩いてきた院長（トリマキとボクサーを引き連れてる）とぶつかりそうになる。

院長

気をつけろ！

フウ、院長を睨みつける。

院長、鼻を鳴らして通りすぎる。

院長

まったく、小児科なんぞつぶしてしまえ。小うるせえのを相手にしたってちつとも金にならない。

トリマキ

いやまったくおっしやるとおりで……。

目で追いかけるフウ。看護師もドアから顔を出して去っていくさまを見つめる。

フウ

ちえつ、あの新しい院長、いけすかねえ。

看護師

そーねえ、先輩たちもみんな前の先生のほうが良かったって言ってるわ。

あの人、二言目にはオカネオカネだから嫌われてんのよ。

まともに相手してんの科長さんくらいよね。でも科長も科長でお金にウルサイのよねー困っちゃうわー。

早口に看護師が愚痴る間に、ボクサーがちらりとフウを見る。一瞬目が合う。睨み合うふたり。

看護師

……つて、アタシがそう言ってたのは内緒よ？

フウ、聞いていない。

### ○病院・院長室

基本は事務室。しかし院長の手により、成金風の趣味の悪い装飾がいくつも追加で飾られている。

院長、どっかと革張りの椅子に腰掛ける。葉巻を取って吸い始める。

トリマキが机の前に立ち、揉み手で話を聞いている。ボクサーは壁に背をもたせかけている。

院長

まったく貧乏くさいところだな、ここは。とつとと建て替えてもつと近代的な設備の病院にしないと、金払いのいい患者が入ってこないぞ。

トリマキ

おっしやるとおりで。

院長

で、だ。呼びつけたのは他でもない。あんたに手伝っても

らいたいと思つてな。

トリマキ どうぞどうぞ、センセイのためだったら私らはなんだつて  
やりませあ。

トリマキ、いったん振り向いて、ボクサーに呼びかける。

トリマキ おい、ちゃんと聞いてんのか？ センセイにご恩を返すい  
いチャンスなんだぞ！

ボクサー 聞いている。汚れ仕事は俺が引き受ける。それでいいんだ  
ろう。

トリマキ ったく、相変わらず無愛想な奴……（院長に向き直る）す  
みませんねえ、あんなんで。

それで、何をなさるおつもりで？

院長 実はな。調べたんだが、この建物、火災保険がけっこう高  
額なんだ。

火事で燃え落ちてくれりゃあ、建て替えてお釣りが来る。

しかし火事を出しちゃ、院長の責任問題ですぜ？

そこでだ。（にやりと顔をゆがめる）……「子供の火遊び」  
つてのはどうだ？ 親に謝らせて、こっちは被害者面して  
ればいい。小児科をつぶす口実も作れる。

（窓から、外の遊び小屋を見下ろす）見るあの小屋！ あ  
んなもの建てる土地があったら、病室のひとつも増やせつ  
てんだ。あそこから火の手を上げてやれ、まったくくそい  
まいましい……。

院長とトリマキが悪だくみを続ける間、ボクサーは遠くを  
見ている。

## ○スポーツクラブ・トレーニングルーム（数日後の土曜日、夜）

フウが、壁に取り付けられた垂直跳び測定用の計測器（黒  
板）の前に立っている。

フウ ミキせんせー、コレなんだ？

ミキ それは垂直跳びの計測器よ。ジャンプの高さを測るの。や  
ったことない？

思いつきり高くジャンプすりゃいいのか？

まあ、そうね。

（考えるしぐさ）「何か数値記録を出した方がヤマセさんも  
わかりやすいかな？」

じゃあ、今日はいろいろ測定してみようか。

ミキ、チヨークの粉を持つてくると、計測器に近づき垂直  
跳びを実演。

深く膝を曲げ、まっすぐに背筋が伸びたジャンプ。最高点  
で板を叩き、好記録。

※垂直跳びは、小三男子 35cm、20 代男子平均が 57cm、20 代女  
子平均が 39cm、バスケット等で鍛えている男性で 80～90 くらいだそ  
うで、女子は 60 超えたら上出来だとか。なお、ギネス記録が 122cm。

フウ おー！ すげー！ 俺もやる！

フウが試す。しかし、ラジオ体操第二のように腕を折り曲げ、股を割ってしゃがみ込んでのジャンプで、全然記録が伸びない。

フウ これでどんなもんだ？

子供A 全然ダメじゃん。

続いて子供Aが跳ぶ。好記録で、フウより二〇センチ以上高い。

フウ おー。すげー。

子供A お前、フォームが悪過ぎ。

フウ フォーム？

子供A 腕は後ろに振るんだよ。

ミキ そう、それで膝をそろえて。もつと柔らかく。

フウ、二回目のチャレンジ。五センチ以上記録が伸びる。

フウ おー。

ミキ (ノートに書き込む) じゃ、フウくんはそれが記録ね。

フウ え、まだまだ上の記録出せるって！

ミキ 垂直跳びの試技は二回って決まってるの。

フウ オレ 1.5倍で三回……。

ミキ フウくん！ ガマンも 1.5倍！

フウ ちえー……。

部屋の外にヤマセが現れる。アクリル壁越しに、それをめざとく見つけた子供Bが叫ぶ。

子供B あ！ ヤマセさんだ！

子供たちが講習そっちのけでヤマセに群がる。ヤマセ、子供たちに請われて中に入ってくる。取り囲まれるヤマセ、その表情は満足そう。フウはその輪に加わらない。ミキの横で遠くから見ている。

フウ あいつエラいのか？

ミキ (苦笑) おとうさんと同じことを言うのね……。

子供Bが計測器を指差して、ヤマセの袖を引く。

子供B ねーヤマセさん、どれくらい跳べる？

子供たち、口々に跳んで跳んでとせがむ。

ヤマセ ……一回だけだぞ。

ヤマセ、言いながらリストバンドをはめる。  
計測器に近づくと、ほんのわずかに膝を曲げてジャンプ。  
それでも、ミキの記録を軽々超え、一メートルに到達する。  
すげーっ！と、口々に子供たちの歓声。  
一方で、ミキは驚いた表情、フウは眉間にしわを寄せる。

## ○病院・ルナの病室

トリマキとボクサーが入ってくる。トリマキの手に懐中電  
灯。  
入院している子供たちはみな寝ている。ふたりはそれぞれ  
の顔を見込んでいく。

ボクサー 誰にするんだ。

トリマキ 誰でもいいさ。

ふたりがルナのベッドを覗き込む。  
トリマキが懐中電灯の光を直接ルナの顔に当ててしまい、  
ルナが目覚ます。寝ぼけ眼。

ルナ ……誰？

トリマキ ちっ、起こしちゃった。

侵入者だと察知してナースコールしようとするルナ。その  
前にボクサーがルナの口を押さえ、抱え上げて病室を出る。

ルナ (暴れる) ……!! ……!!

ボクサー こいつでいいんじゃないか。

トリマキ しかたないな。とにかく眠らせるぞ。

睡眠薬がかがされ、ルナ、眠りに落ちる。

## ○スポーツクラブ・トレーニングルーム

時間経過。

トレーニングルームに残っているのは、フウ、ミキ、ヤマ  
セ。他の子供は帰宅済。

ヤマセはパイプ椅子を持ってきて座り、足を組んでいる。  
フウはそれに向かい合う位置に立っている。ミキは壁にも  
たれて神妙な表情。その場に居づらそうな様子。

ヤマセ さて、フウくん。

君を僕の特選クラスに入れてはどうかと、ミキ先生から推  
薦があったんだ。

どうだろう？ 君の気持ちを確かめたいと思ってね。

そのクラスに行くよ、あんたに教わんの？

そうだよ。「マックスヒーロー」直々に……

フウ (さえぎる) じゃ、いらねえ。

ヤマセは断られるとは思っておらず、虚を衝かれる。

ヤマセ　なぜかな？　まだ早いと思ってるのかい？　それとも……。  
フウ　ちげーよ。オレ、あんたに教わるのがイヤだったってんだ。

ヤマセ　このインチキ野郎。

フウ　（目を見開く）……?!  
高く跳ぶには、腕振って、ヒザ曲げんだ。そうしなかった

のに何であんなに高く跳べんだよ。

ヤマセ　それこそが、訓練の賜物だよ。

フウ　ガキ相手なら本気を出さなくていい、つてのが訓練の賜物か？　なああんた、本気出したらどれだけ跳べんだ。

ヤマセ　はは……ずいぶんと手厳しいね。（壁際のミキに）ミキ先生、あなたからも何とか言ってやってくださいよ。

話を振られて、ミキの表情が硬くなる。

ミキ

あの……実は……私も、そう思いました。

あんな軽い踏み込みで、垂直跳びが一メートルを超えるなんてありえない。

ミキは怖々と、フウは堂々と、疑いの目でヤマセを見る。  
ヤマセは、初めのうち疑われることに当惑しているが、やがて微笑む。ただし、目が据わっていて、相手を見下す印象を与える笑み。

ヤマセ

ミキ先生にはさすがに見抜かれる……か。

いいだろう。いずれ事実を共有する仲間が必要だと思っていた。

ヤマセ、右腕を突き出し、はめたリストバンドを見せびらかす。

ヤマセ　秘密はね、これなんだ。

ヤマセのモノローグ。

ヤマセ　まだ公表されていない研究があつてね。それによると、人類が出しうる身体能力には、一定の限界がある。

人間が、ふだんは自分の能力の数%しか出していない、という話を聞いたことがあるだろう。力を出し過ぎると自分の体を傷つけてしまうから、脳と筋組織が連動して、出せる力を制限しているんだ。

だがそれを突き詰めると、一〇〇%出力できたときの値はすべての人類で等しいことがその研究で明らかになった。人間の脳は九歳頃、大人と同じ一四〇〇グラムに成長する。それ以降は、人間の身体能力の限界値は、全人類で一律だ。人種も、年齢も、鍛え方も関係なく、身体能力の高い低いとは、「限界値の何%を出しているか」であり、成長や鍛錬の結果は、そのパーセンテージの向上を意味する。

限界値とは、各種目の世界記録だと思つていい。世界記録

を出すレベルの人間は、各分野で使う筋組織で限界の九〇%以上を引き出している。

そこでこのリストバンドだ。これには特殊な波動を発生するチップが埋め込まれていてね。その波動は、人間の脳に作用して、「リミッター解除」と「クロックアップ」のふたつの作用を及ぼすことができる。

わかるかい？ まず「リミッター解除」。さつき説明した身体能力の出力制限がなくなる。それにより、どんな人間でも一律に人間の最大能力で運動できるようになる。

さらにクロックアップだ。コンピュータのクロックアップを知っているかい？ 理屈はそれと同じ。脳内信号の伝達を速めて、制限値自体を1.5倍上げることができるんだ。簡単に言えば、このリストバンドをつけるだけで、誰でも人類の限界を超え、世界記録の1.5倍を出せるようになる、そういうことだ。

ミキ

ヤマセ

そんなことが……。わかるだろう、ミキ？ ただ強いだけのヒーローなら、こうしてアイテムを使えば誰でもなれる時代になったんだよ。だから精神を鍛えなければならぬ。正義のために、誰かを守るために、そういう意識を強く持てる人間だけが、これを持つことを許される。……そして僕は許された。

ミキ

ヤマセ

誰に、どこで？

二年前の事故の後に。スタント生命を絶たれて失意に沈んでいた僕に、主治医が言ったんだ。新しい力が欲しくないかってね。……本当に、ヒーローのみみたいだろう？

残念ながら、世界征服を企む悪の組織がなくなつてね、使う場所が実に限られるのが難だが、

——僕は、真正銘の、「マックスヒーロー」になったんだ。

ヤマセ、再度目が据わったまま微笑む。

ミキ、緊張の面持ちでその笑顔を見つめる。

だがフウはヤマセをにらみつける。

フウ

ヤマセ

バックじゃねえの？

?!

自転車に補助輪つけて、ハイ乗れましたつってんのおんなじじゃんか。エラそうにすんじやねえよ。

人間の限界の1.5倍だろ。おもしろいや。オレはそんなの力借りなくたって、いつかそこまで行ってやる。ルナのためにも、そこまでたどり着かなきゃいけないんだ。

ミキ。言ったとおりだろう。子供はヒーローになれないんだよ。挫折も、哀しみも知らず、あてどない目標を振りかざすだけだ。

ヤマセ

ミキはうなだれたまましばらく黙っている。体の前に組んだ手を震わせる。涙目になって、口を開く。

ミキ

そうやって……そうやって、無知な子供はだますものって決めつけることが、ヒーローの大事な心得なんですか。事故で再起不能といわれたあなたが、厳しいリハビリに耐えて復帰を果たした。みんなそう思っています。そのことが、どれだけ多くの子供たちを勇気づけたか、わかりますか。子供たちだけじゃない、私だって……、私だって、本当にうれしかったんです……。

ミキの右手が、無意識のうちに左肘のあたりに触れる。そこには、大きな縫い跡がある。

ミキ

帰ろう、フウくん。  
遅くまで引きとめてごめんね、送っていくわ。

ミキ、フウを促し、ヤマセをひとり残して部屋の外に行く。

## ○病院・庭

遊び小屋にトリマキとボクサー。  
ボクサーがルナを小屋の奥に横たえる。  
トリマキが小屋の床にガソリンを撒いている。少量。

ボクサー ケチケチしないでぶちまけるよ。

トリマキ バカ、あんまりハデにやったら火遊びに見えないだろうが。

ふたり、小屋の外に出る。

トリマキ おまえにはまだ仕事が残ってる。いいか、適当なところで

ガラスを割って火を投げ込むんだ。(病院の建物を指差す)  
こつちが燃えなきや意味がないからよ。今日当直の看護科長には金をつかませた。避難優先で動いてくれる。

ボクサー 火は消さねえわけだな。よその人間に見つかる可能性はこの時間になったら人はほとんど通らないし、見つかってもここはフェンスで囲まれてる。そう簡単には入ってこれんさ。

トリマキは去っていきボクサーだけがその場に残る。

## ○スポーツクラブ・玄関口

ミキとフウが玄関から出てくる。ふたりは黙っている。特にミキは言葉もなく沈痛な面持ち……をしているが、建物から出てすぐに鼻を鳴らす。

ミキ なんか焦げ臭くない？

通りの向こう側、病院の敷地内から火がちらちら。

ミキ／フウ ……！！！！

横断歩道はちようど青。駆け出すミキとフウ。

ヤマセが後方から現れ、人類の限界を超えた速度であったという間にふたりを追い抜いていく。手には消火器。

ヤマセ ヒーローがどういふものか、見せてやる。

ヤマセは病院の敷地に入っていくと、駐車場と庭とを隔てている金網のフェンスを駆け上がって飛び越える。ミキとフウも続いて敷地に入るが、ふたりには乗り越えるのはムリな高さ。呆然とするミキ。

ミキ 消火器を持ってこの高さを……。

フウ 通用口知ってる、こっち！

フェンスから離れて走り出すフウとミキ。建物を回りこんで通用口から入るふたり。入ってすぐの部屋の窓をフウが叩く（看護婦の宿直室）。

フウ おい、誰かいねえのかよ、おい！

部屋の奥で札びら数えながらほくそ笑んでいる看護科長。

## ○病院・庭

燃えている小屋を背後にボクサー。ボクシングのファイティングポーズをとり、体を小刻みに上下させ始める。

ボクサー フェンス越えてくる奴がいるんじやねえかよ……。

消火器を地面に置き、ヤマセが拳法の構えを取りながらボクサーに近づいていく。

ヤマセ 貴様が火をつけたのか？ 何者だ？

ボクサー 答える必要はない。知られたからには、おまえも死んでもらう。

ヤマセ 悪役決定、だな。やれるもんならやってみな。

## ○病院・プレイルーム

屋内から小屋への経路となる、絵本棚や子供用の遊具が並んでいる部屋。ファンシーな壁紙やカーテン。

フウとミキ、消火器を持って（フウは小型のもの）廊下から室内に飛び込む。

フウとミキがプレイルームに飛び込むと、窓の外で、ヤマセとボクサーとが対峙しているが見える。

ミキ （窓を開けて）ヤマセさん！



フウ 何やってんだよ！ 火、消せよ！

### ○病院・庭

ヤマセ、自信まんまんんで殴りかかる。だが、ボクサーはパンチの方向からわずかに体をずらし、避ける。

ヤマセはさらにハイキックを出す。ボクサーはバックステップとスウエイで避ける。紙一重だが、常に冷静な表情。この時点で、ボクサーはヤマセがリストバンドをつけていることに目を留めている。

ヤマセ くっ……?!

ボクサー ふんっ！

逆に、一気に間合いを詰めたボクサーの右フックがヤマセの頬にクリーンヒット。

ヤマセ、鼻血を出してよろけるがこらえる。

ヤマセ こんな……バカな……。

ボクサー 元プロをナメるなよ。

確かに威力のあるいい攻撃だ。スピードもある。だが、至極読みやすい。

ヤマセ、再度殴りかかるが当たらない。逆にボクサーのパンチが次々ヒットする。

ヤマセ ぐ……。  
ボクサー おまげに防衛がなっちゃいない。

窓から見ているミキ、気付く。

ミキ

「間合いとフットワークが違う！ ヤマセさんが鍛えたのはしよせん擬闘拳法。フォームの美しさを求め、相手と呼吸を合わせて初めて成り立つダンスに近いもの……。相手を倒す技術を駆使して本気で向かってくる敵には、いくら身体能力が上がったって、通用しない！」

### ○病院・遊び小屋の中

ルナ、目を覚ます。何がどうなったのか理解できていない。

### ○病院・庭

ヤマセとボクサーの間で何度か技の応酬。しかし、ヤマセの攻撃は当たらず、ボクサーの打撃は命中する。グロッキー気味のヤマセに、ボクサーが言い放つ。

ボクサー だいたいよ、おめえ。何を気取ってんだか知らねえが……。

ボクサー、ポケットに手を入れ、何か取り出す。それは…

…ヤマセがはめているものと同じリストバンドである。

ヤマセ  
?!

ボクサー 切り札は最後に残しておくもんじゃないやねえの？

ボクサー、言いながら腕にはめる。「変身」のエフェクト。ぐっと拳を握ると、血管が浮き出す。うろたえるヤマセ。

ボクサー おいおい、これが世界にひとつしかないステキなヒーロー

変身アイテムだとも思ってたか？ 悪徳医師の秘密組織があつてよ、これとは思った患者にバラまいてんだぜ。

オレはリングの外で人を殴り殺したことがある。それを、この院長に死因やらなんやらごまかす始末をつけてもらった義理があんのさ。それでこいつの実験台も引き受けた。どうやらおまえは組織について何も知らされていないようだが……まあ、ヒーローを気取りたい奴には、オトナの事情を教えるだけムダだと思われてたのかもな。

(ヤマセをぎろりとにらむ) おしゃべりは終わりだ。そろそろいくぜ。

ヤマセ、ひるんで後ずさるが、ボクサーは人類の限界の1.5倍の速度で間合いを詰め、人類の限界の1.5倍の威力の右ストレートを繰り出し、ヤマセの顔を砕く。  
十メートル近くふっ飛ばされ、のたうち回るヤマセ。顔を引きつらせるミキ、フウ。

ボクサー、しばらく拳を見つめているが、やがて、ミキとフウが見ている窓辺に向き直る。

ボクサー あとふたり追加か。ずいぶんと割に合わない仕事になったな。

ボクサー、ふたりに近づこうとする。  
ミキ、フウの手を握る。

ミキ 逃げよう、フウくん！

フウ、その言葉に応じて、じりつと後ずさりかける。

### ○病院・遊び小屋の中

あてもなく伸ばしていたルナの手に、火の粉が落ちる。びくつと手を引っ込めるルナ。我に返り、悲鳴をあげる。

ルナ 助けてえーっ！

### ○病院・庭

フウ、声でルナと気づいて、後ずさりかけた足を止める。

フウ ルナ?!

ミキ

ええっ?!

フウ、窓枠を乗り越えて庭に飛び出す。

フウ

てめえ、ルナに何しやがったあーっ!

フウ、ボクサーに突進していく。ボクサー、その突進をフウの頭を片手でつかんで止め、そのまま持ちあげる。こめかみを握られ痛がって暴れるフウ、しかしボクサーの腕はびくともしない。

フウ

ちつくしよー、ルナ……ルナーっ!

ボクサー

やかましい!

ボクサーはフウを振り回し、投げ飛ばす。倒れているヤマセの上に落ち、ヤマセはまた痛がったのたうつ。  
ミキ、この様子を見てこくりとつばを飲み込む。足が震えて、へたり込みそうになる。

ルナ(声)

お兄ちゃん……お兄ちゃん、いるの? いるの?!

(咳き込む) げほっ、ごほっ、ごほっ。

ミキ、ぐつと唇を噛みしめる。窓枠を乗り越え、フウ・ヤマセとボクサーの間に割って入り、構える。

ミキ

フウくん、この人は私がなんとかするから、はやくルナちゃんを!

ミキとボクサーの対峙。

ボクサー

そんなへつびり腰でなんとかなるとでも思ってたのか?

ミキ

するわ。しなくちやいけない。……あなた、子供を犠牲にしてなんとも思わないの?!

ボクサー

思わんね。いっぺん殺したら、後は何人やつてもたいして変わらんのだ。……今から追加で三人殺すんだぜ、礼金も三倍追加してもらわねえとな。

ミキ、賢明に突きや蹴りを入れるが、まったく相手にならない。逆に、ボクサーがミキの鳩尾を一撃する。

ボクサー

おとなしくしてろ!

ミキ

かはっ……!!

ミキ、くず折れる。痛みと呼吸困難で動けなくなる。

フウが倒れたまま、顔だけを向けてその様子を見つめている。立ちはだかるボクサー、その向こうで燃える小屋。

フウ

ヤマセ。それ貸せ。

突然呼びかけられて、ヤマセがびくつと体を震わせる。相

手はフウだが、怯えてしまっている。

フウ

今だけ、それ貸せ。

フウ、涙目になりながら起き上がり、ヤマセの腕のリストバンドに手をかける。ヤマセは嫌がって腕を引くが、フウは構わず奪い取る。

フウ

人間の限界の1.5倍、だろ。そんなの力借りなくたって、オレはそこまでたどり着く。そうでなきゃ、ルナがくれた命の半分に、申し訳がたたねえんだ。だから、だから、

フウ

ルナを守れなかったら、何の意味もねーんだ！

フウ、ダッシュ。ボクサーに向かって突っ込んでいく。

フウ

うおおおおおっ！

ボクサー

ほお………たいした小僧だ。

だがこつちも仕事………うムっ?!

ボクサーが構えて迎え撃とうとするところ、ミキが倒れた

ままでボクサーの足に飛びつき（足首に抱きつく格好）、動きを抑え込む。

ボクサー

くそっ！

フットワークを殺され、フウの突進を避けられないボクサーは、ガードの姿勢をとる。

フウ、ジャンプ。ガードより上の高さに至り、顔面（額あたり）に蹴りを入れる。その顔面を足がかりに二段ジャンプ。跳び越えていく。

ボクサー

ぐはっ………。

ボクサー、ミキの抑えている足首を支点に後方へ回転するように倒れ、地面にしたたかに後頭部を打ち付け、気絶。

### ○病院・遊び小屋

フウのジャンプの着地点は燃えている小屋の前。

小屋の入り口からルナの姿が見えている。行く手を炎が阻んでいる。間隔は五メートルくらい。ルナは目を覚ましているが、どうにもできずうろたえている。

フウ

ルナ！ 無事か?!

ルナ

おにいちちゃん！

フウ

そこでじっとしてろ！

フウ、軽く助走をつけると一足跳びでルナのところまで飛び込む（通常の小学生の幅跳びでは到底届かない距離）。しかしこの着地の衝撃で小屋が揺れる。天井と屋根がガラガラと燃え落ちる。飛び散る火の粉。

フウ  
やべっ！

### ○病院・庭

ミキは痛みを堪えて立ち上がっている。手に消火器を持って小屋の前へ行くが、そこで小屋が崩れ始める。

ミキ  
フウくん！

### ○病院・遊び小屋の中

フウはルナに覆いかぶさって守っている。床に燃える木材が積み上がり、入り口に戻ることができない。

フウ  
大丈夫か、ルナ？！  
ルナ  
うん、でも、これじゃあ……  
フウ  
くそっ……。

フウ、辺りを見回す。天井が崩れたため、二階まで垂れ下がっているロープ（高さ三メートルくらい）が一階から見

えることに気づき、目を見張る。

フウ

!!  
ルナ、おぶされ！ しっかりつかまってる！

フウ、ルナを背負い、膝をそろえ、腕を後ろに振って、「垂直跳び」。

フウ

いってんごばあああ！

フウ、ロープを掴む。やった、と表情が緩むフウ。しかし火事の炎でロープが熱されている。

フウ

熱ッチイ！

掴んだ手の力を反射的に少し緩めてしまい、ずり落ちそうになる。しまったという表情になる、フウ。

しかし、ルナの手がロープを掴む。落ちかかるのが止まる。一瞬だがふたり分の重さを支え、ルナの顔が苦痛に歪む（手をケガする）。  
フウ、手を握ってしっかりと掴み直す。

フウ

ルナ……。

ルナ

（痛みをこらえて微笑む）……今は、2倍だよ？  
だな！

フウ、ルナとともに木によじ登る。火勢から離れた枝に移動し、ミキに手を振る。

ミキ（消火器で消火中）フウとルナに気づき、明るい顔になって手を振って応える。

遠くから消防車のサイレン。

ボクサーがムクリと体を起こす。

ボクサー

……参ったねどうも。

ミキ

（消火を続けながら）だつたら手伝って！

ボクサー

人殺しをあてにするな。

ボクサー、泥を払いながら立ち上がり、ミキに背を向ける。

ミキ

（背中に）逃げるの?!

ボクサー

ああ。捕まるつもりはない。

ミキ

だが、俺の負けには違いない。

ボクサー

勝ち負けの問題じゃ……。

ボクサー

悪党にも悪党なりのプライドがあんだよ。

樹上のフウを見上げる。フウはルナについた煤を払ったりしていてボクサーに気づかない。ボクサーは苦笑し、それから、フウの手のリストバンドに目を留める。

ボクサー

（ミキに顔だけ向けて）組織は回収したがるだろうが……

まあ、俺が何とかしよう。組織の手があんたらに及ばないようにはできると思う。

警察や消防には、ボヤを見かけて消しに来た、それだけ言うんだ。俺のことやリストバンドのことは口にするな。そうすれば、火事のこと俺が始末をつける。信じちゃもらえんだろうが、まかせておけ。

ボクサー、再び背を向けて歩き出す。ヤマセと同じように、フェンスを軽々跳び越える。

ボクサー

「あの連中の言いなりに働くのもいいかげん潮時だしな……」

ミキ、呆然と見送る。  
消防車の到着。

## ○院長宅・居間

豪華なソファ。ウイスキー瓶の乗っているガラステーブル。酒を傾けている院長とトリマキ。

電話が鳴る。院長がにやにやしながら電話を取る。

院長

もしもし。（わざとらしく）おや、科長さんじゃありませんか。こんな夜更けに何事ですか、火事でも起きましたか？……（不審げな表情に変わり）え？ なんだって？

看護科長(声) 『ですから、警察が来て、その……密告の電話があったと

かで、……任意同行をと……。』

院長の邸宅前にバトカーが到着しており、トリマキがその様子を窓から確認して狼狽。青ざめてくず折れる院長。

### ○病院・玄関(翌朝)

紙袋と花束を持って、ミキが現れる。

玄関にほど近い駐車スペースに救急車。ミキが院内に入るとき、すれ違うようにストレッツチャーが出ていき、救急車に搬入される。乗せられているのは、顔面のほとんどを包帯で覆われたヤマセ。目だけが露出しており、腫の生気は失われている。ミキ、ストレッツチャーとともに出てきた看護師を呼び止める。

看護師

専門の病院に移すんです。ここは内科と小児科だけなので、応急処置しかできません。

ミキ

じゃ、これを(紙袋を渡す)……必要そうな荷物を預かってきましたので。

看護師

ご家族の方ですか？  
いえ、ただの同僚です。

ミキ

救急車去っていく。

ミキ、その様子を見送り、定期入れを取り出すと、収めていた一枚の写真(特撮の現場で、ヤマセとミキが並んで写っている)を破り捨てる。その背後から、とーちゃん現る。

とーちゃん ……理想のヒーローは、去ってしまいましたか。

ミキ え、ええ、まあ。(急に話し掛けられてどぎまぎ) 去つたといふんじゃなくて、ずいぶんと背が縮んだだけかも……。

とーちゃん 定期入れに入れておくものじゃあなさそうだ。

ふたりは病院の中へ入っていく。

病院内で(ふたりと関係なく) 看護師同士の会話。

看護師

前の院長先生、新しい人が決まるまでの間は来てくださるそうよ。小屋も建て直してくれるんですって。

とーちゃんとミキ、病院内を歩きながら会話。

とーちゃん 昨夜はご迷惑をおかけしました。

ミキ とんでもない。こちらこそ出迎えや聴取に遅くまでおつきあいいただいて……。

とーちゃん、そうではない、というふうには首を横に振る。

とーちゃん 家族の間では隠しごとはしないようにしています。昨

ミキ

とーちゃん

夜ほんとうは何があったのか、ヤマセという人のこと、リストバンドのこと、みなフウから聞きました。なら、なおさら……大人があの子たちに迷惑をかけたんです。ひたむきで純粋な「1.5倍魂」には、大人の事情は邪魔ではないんですよ、きつと。そうでしょうか。

ゆうべは妹のためを思えばこそうまくいきました。けれど、ひたむきで純粋な魂は、ひとつボタンを掛け違えるだけで独善的な無鉄砲に変わります。

……あの子は、何を1.5倍にすべきで何をすべきでないのか、ちっともわかっていないんです。それを自力で判断できるようになるまでは、やはり大人が道筋を整えてあげなくちゃいけません。暴走せぬよう、ブレーキをかけぬよう、1.5倍の速さで走り続けられるように。

でも正直、もう親だけでは手が回らないところまで成長してしまってますね。

ミキ先生。よろしければ……これからも、あの子のことをよろしくお願いします。

ミキ

……はい。

会話するうちに、ふたりはルナの病室の前を通過する。

ミキ

あれ、この部屋じゃ……。

とーちゃん

昨夜はフウも一緒でしたから。

とーちゃんは歩き続けて少し離れた病室の前で止まる。

とーちゃん

特別に、こちらの個室をお借りしました。

### ○病室（個室）

とーちゃんが病室の扉を開ける。すぐに、しーつと指を唇に当てて振り向く。そっと中に入るふたり。

とーちゃん

今日だけは、もう少し寝かせておきましょうか。

ひとつのベッドで、寄り添い、安らかな息を立てて眠るフウとルナ。ルナの手、フウの体のあちこちはやけどのため包帯が巻かれている。

### ○病室・個室前の廊下

時間経過。

とーちゃんとミキ、ベンチに座りながら紙コップのコーヒーなど飲んでいる。

病室の中から声が聞こえ始める。

とーちゃん

お、起きたかな。

ルナ（声）

おにいちちゃん、それどうする？ ヤマセって人に返すの？

フウ（声）

返したってろくなことに使わねーだろ。



ルナ（声）　じゃあ……。  
フウ（声）　……オレ、自分で持ってようと思う。

病室の扉が開く。フウとルナが話しながら出てくる。フウは手にリストバンドを持っている。

フウ

「人類の限界の1.5倍」になってみせるって、オレ、ヤマセに言ったからさ。でもどこまで行ったら1.5倍なのか、コレないとわかんねーじゃん。  
（リストバンドを掲げて）コイツはオレの目標だ。目標が目に見える形になったんだ。こいつと一緒に、オレはこれから「1.5倍魂」で行く。

フウの宣言に、とーちゃんとミキは顔を見合わせて苦笑（やはり誰かが見守っていかなければ不安、の意）。  
ルナの冷静なツッコミ。

ルナ

でもさーおにいちゃん……、

「人類の限界の1.5倍」ってありえなくない？

へ？

フウ

おにいちゃんだって人類なんだから、限界を超えたら、そこが新しい限界になるんだよ？

ルナ

そんなことねーよ、おれ絶対なってみせるよ、人類の1.5倍！  
だから……。

フウ

??????

頭を抱えてしやがみ込むフウ（理屈が理解できない）。  
遠巻きにあきれるとーちゃんとミキ。

とーちゃん

ね？　まずは勉強を1.5倍させたいんですけど、どうしたらいいと思います？

ミキ

頭のなかみはルナちゃんが1.5人分持ってるんじゃないや……。

おわり。

著作権は放棄しませんが、二次利用は、非商用かつ常識の範囲内において、シナリオ全体の使用かアイデアやキャラクター等の部分的使用かを問わず自由です。

許諾は不要です。また、クレジットの記載は強制しません。

てゆーか誰か作画してくれるとすごく嬉しい。メチャ長い話ですが。

By DA☆

---

---

## 1.5 倍ヒーロー 奥付

発行日 : 2006 年 2 月 20 日 初版

著者・発行者 : DA☆ (た)

発行元 : DA☆RK'n SIGHT (だーくんさいと)

Web : [http://www.plala.or.jp/d\\_site/](http://www.plala.or.jp/d_site/)

Mail : [darkn\\_s@xmail.plala.or.jp](mailto:darkn_s@xmail.plala.or.jp)

禁 無断転載

---

---

